



文部科学省 大学改革推進事業（2014年度～2019年度）
大学教育再生加速プログラム（AP事業）

テーマII 学修成果の可視化 「達成度評価の確立と学修成果の可視化」



八戸工業大学

HACHINOHE INSTITUTE OF TECHNOLOGY

教育理念「良き技術は、良き人格から生まれる」に基づき
地域を支える高度な職業人を育成

大学教育再生加速プログラム（AP事業）の概要

大学教育再生加速プログラム（AP事業）は、文部科学省・教育再生実行会議等で提言された国として進めるべき改革を一層推進するため、下記の5つのテーマに基づいた先進的な取組を実施する大学等（短大、高専を含む）を支援することを目的として実施されているものです。

- テーマⅠ アクティブ・ラーニング
- テーマⅡ 学修成果の可視化
- テーマⅢ 入試改革・高大接続
- テーマⅣ 長期学外学修プログラム（ギャップイヤー）
- テーマⅤ 卒業時における質保証の取組の強化

本事業の公募は平成26年度から開始され、平成28年度までに全国の高等教育機関77校が支援を受けながら各校の教育改革に取り組んでいます。

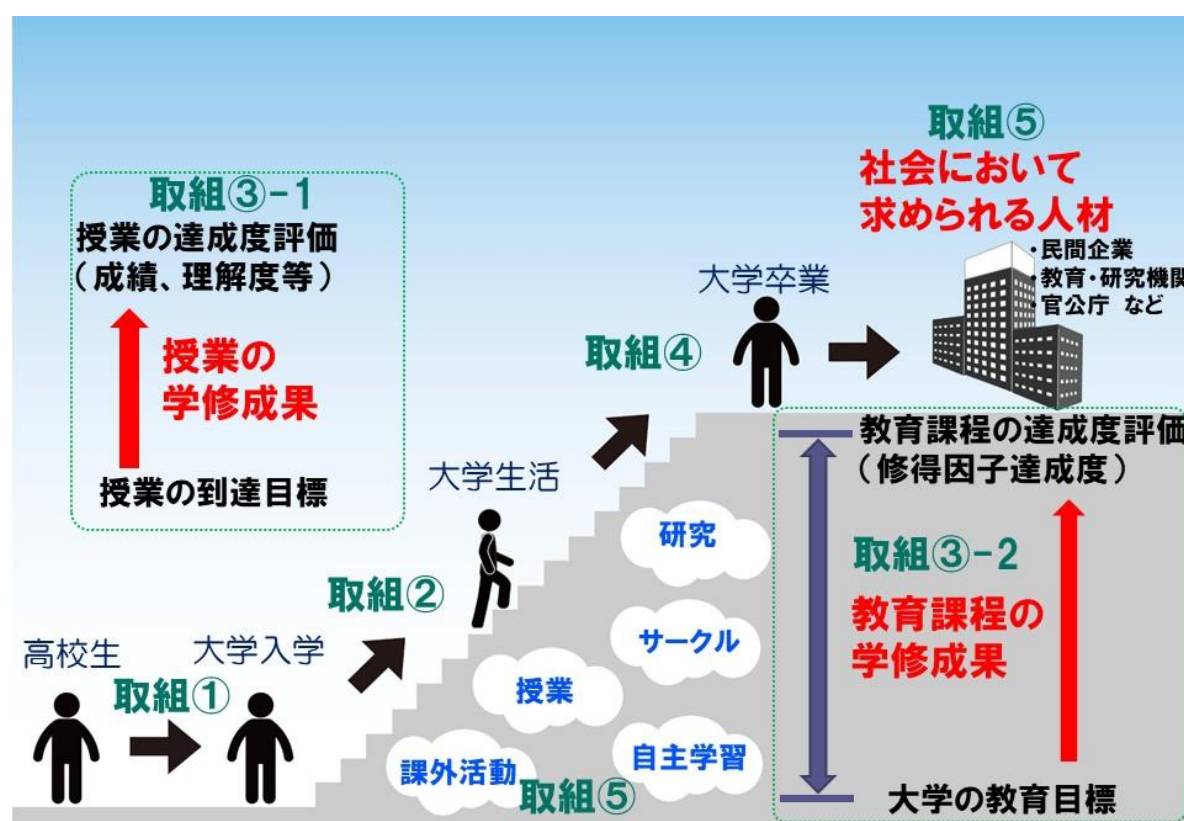
平成28年度にこのAP事業は「高大接続改革推進事業」に改めて位置付けられました。それにより、各採択校には、AP事業の各テーマが連携し、高等学校や社会との接続の下、大学教育における三つのポリシー（「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）、「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー））に基づき、入口（入学）から出口（卒業）まで質保証の伴った大学教育を実現することが求められています。

テーマⅡ（学修成果の可視化）について

本学は、平成26年度に文部科学省・大学教育再生加速プログラム（AP）のテーマⅡ（学修成果の可視化）に応募し採択されました。テーマⅡでは、高等教育の全学的な教育改善と教育質保証を図るため、各種指標や学修記録システム（ラーニング・ポートフォリオ等）を活用した、学修成果の可視化に取り組んでいます。学修成果の可視化により、高等教育機関の教育改善の取組を推進するとともに、学生の学修成果の振り返りによる学修改善を促進することも目指しています。

本学のAP事業：「高大接続改革推進事業」としての展開

平成28年度からの「高大接続改革推進事業」への展開に伴い、本学は、テーマⅡとテーマⅠ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴとの接続課題を検討し、高大接続一体的改革を先駆的に担う高等教育機関として新たな視点を組み込んだ事業内容に再編しました。そして、下図の概念図に示すように、5つの目的を掲げて事業を推進しています。入学してから卒業するまでの教育課程は授業によって編成されます。一方、学生は正課授業以外に課外活動や委員会活動などで教員の助言を受ける正課外教育を経験します。また、教室の内外での教育活動に触発され、自ら学修活動に取り組んでいます。これを踏まえて、本学では、「学修成果」を「授業の学修成果」および「教育課程の学修成果」の2つの視点で可視化しています。



- 取組①: 高大接続教育の推進
- 取組②: 自主的学修活動の推進
- 取組③: 学びの過程における達成度評価システムの確立
- 取組④: キャリア教育の徹底による良き職業人の育成
- 取組⑤: 高大接続改革における質保証の推進

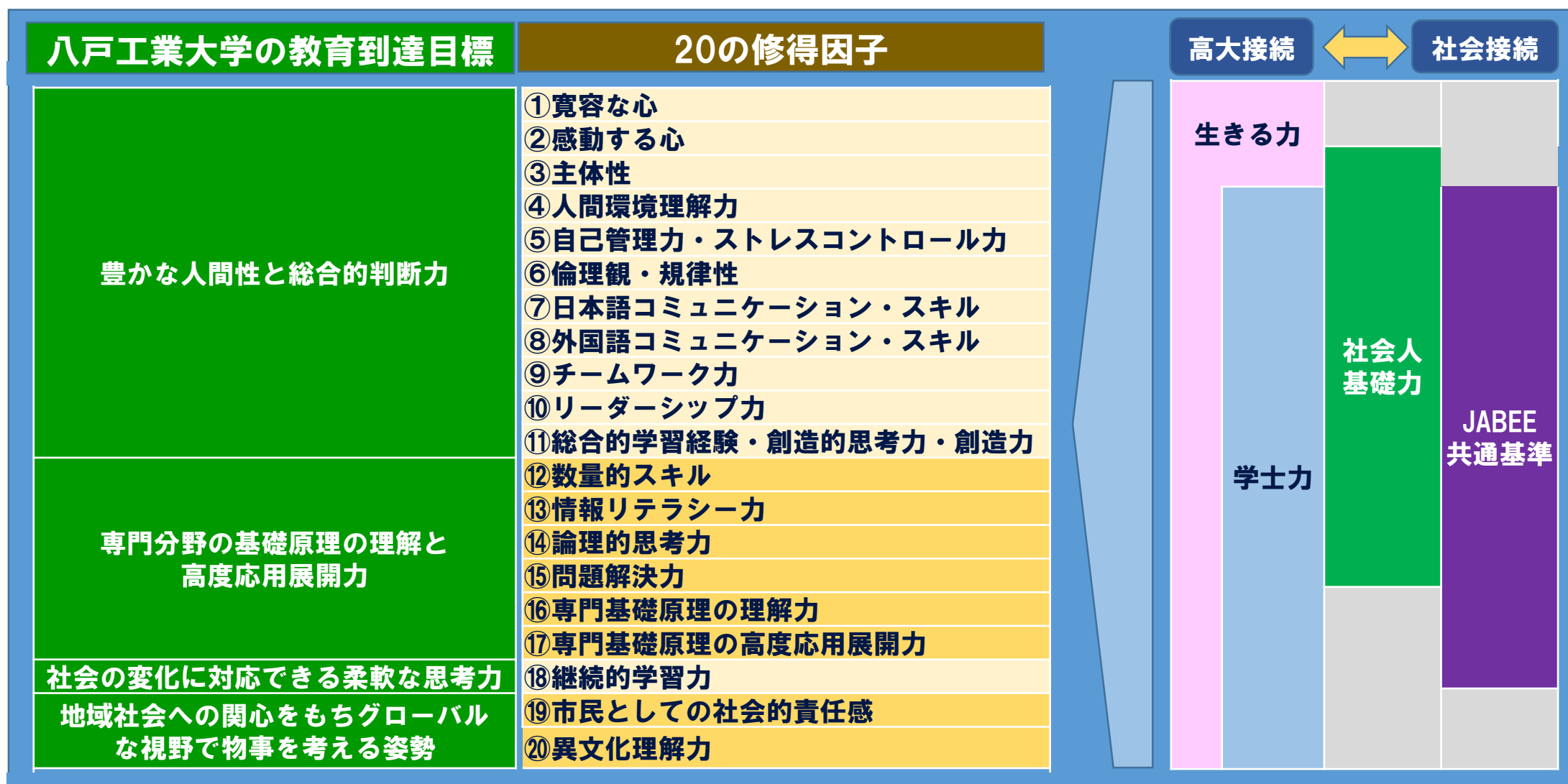
* AP事業のテーマⅠ～Ⅴの観点を統合展開

▲八戸工業大学の「高大接続改革推進事業」概念図

本学の人材育成像と教育システム

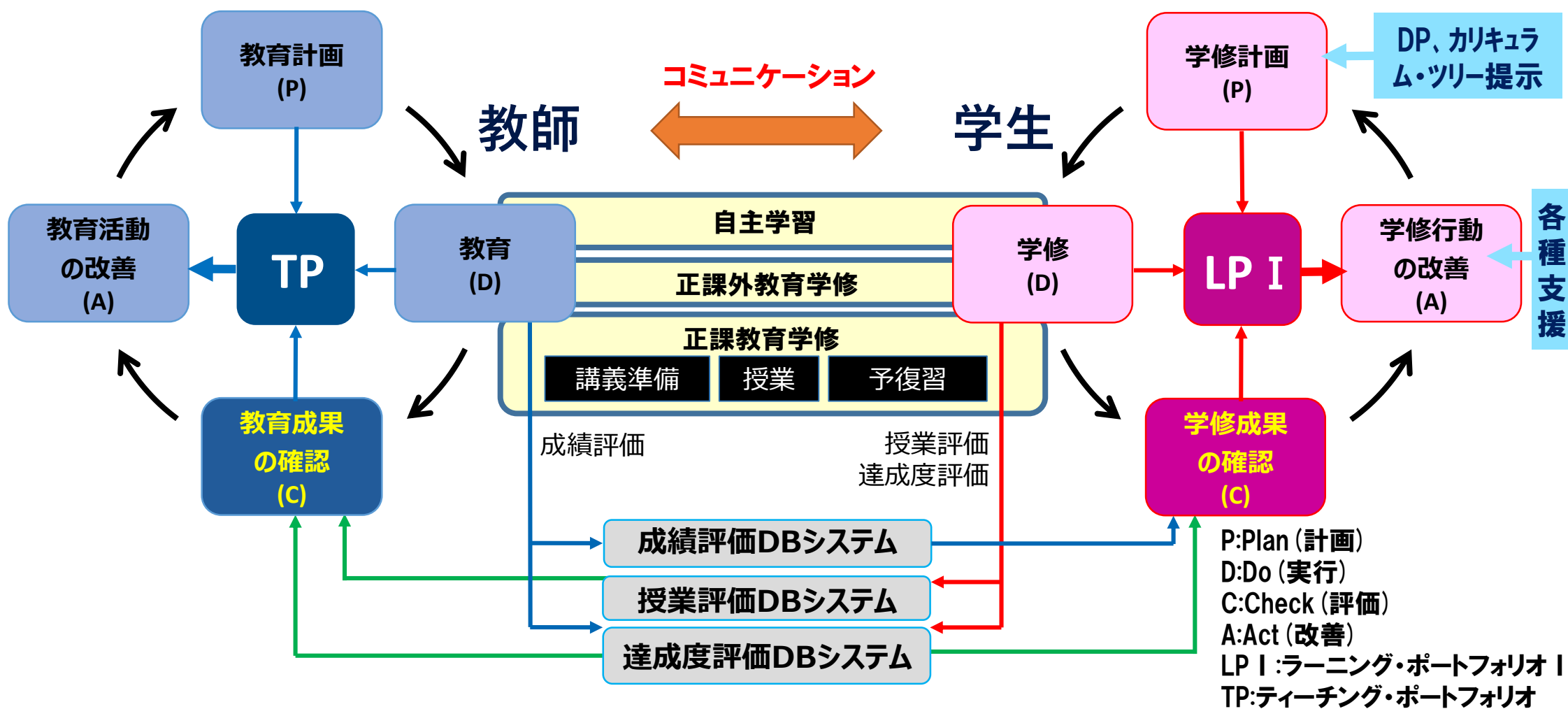
本学では、大学教育における三つのポリシーを掲げ、人材育成像とその教育の実施方法等を明確にしています。その中のディプロマ・ポリシーに掲げる教育到達目標を「20の修得因子」として細分化し、これを全学共通の人材育成指標として掲げています。その教育の質保証を実現する手段の一つとして、教師側と学生側の教育・学修改善サイクル（PDCAサイクル）を回しています。

学生側のPDCAサイクルの要となるのがラーニング・ポートフォリオ（LPI）です。学生はこのLPIを利用し、学修活動・学修成果に関する自己省察（リフレクション）を通じて、自己の成長を自ら作り出す姿勢を身に付けます。また、変化の激しい実社会においても「自立して生き抜く力」を身に付けます。教師側のPDCAサイクルの要となるのが教師の教育活動を可視化したティーチング・ポートフォリオ（TP）です。これらの二重のPDCAサイクルを機能させることで教育の質保証を推進しています。



▲高大接続から社会接続までを意識した指標：20修得因子

これらの指標は、「学士力（文部科学省）」、「社会人基礎力（経済産業省）」、「JABEE共通基準（日本技術者教育認定機構）」などの実社会で求められる力、並びに高校までの教育で育成されてきた「生きる力（文部科学省）」と強く結びついた指標となっています。

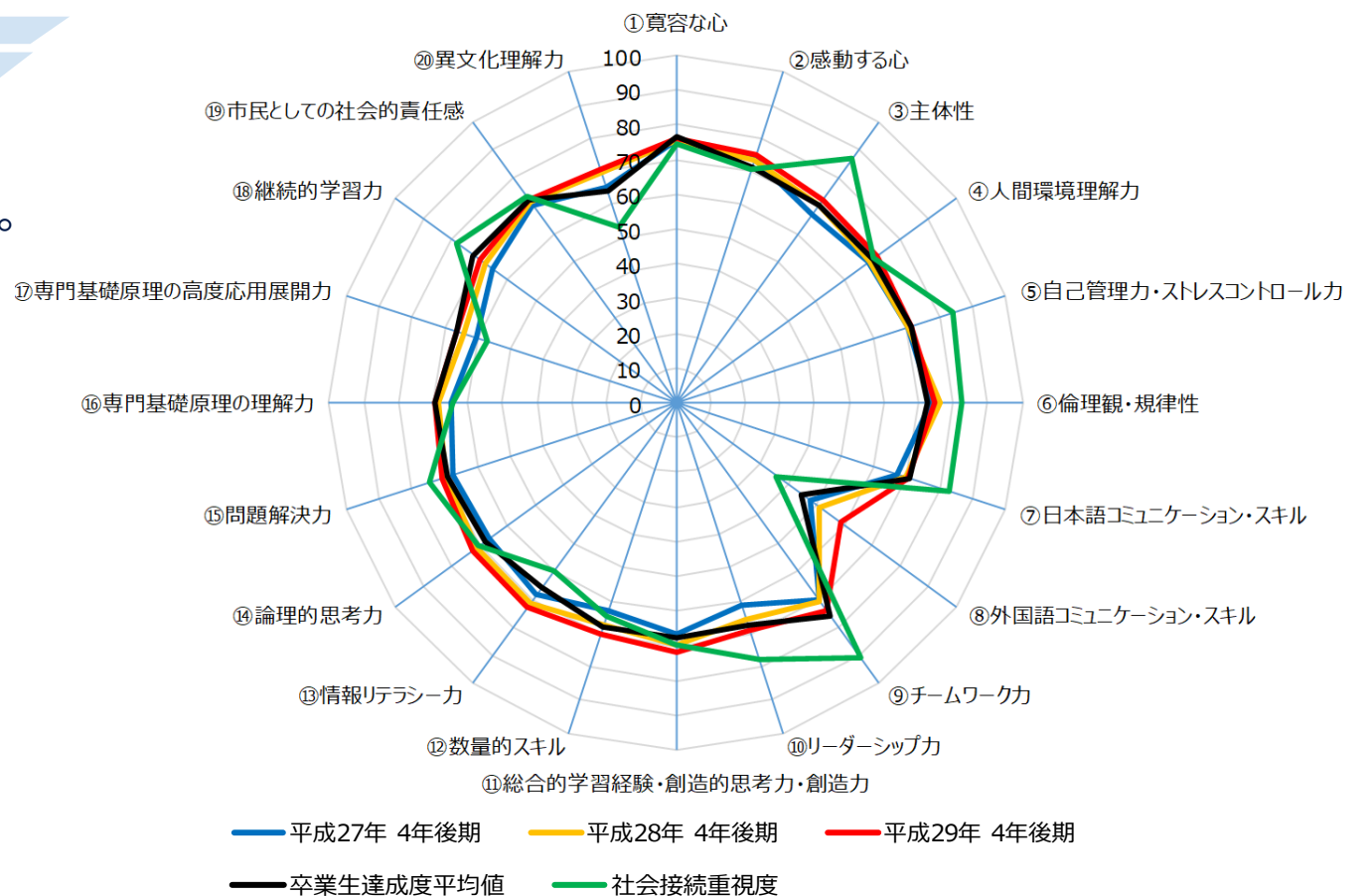


▲学びの質保証を支える学修取組みの可視化と2重のPDCAサイクル



達成度評価について

「授業の学修成果」の達成度は、正課授業の成績評価・授業評価で測定します。また、「教育課程の学修成果」は、20の修得因子について、「主観的達成度評価」、「成績基準達成度評価」、「客観的達成度評価」で測定します。右図は、主観的達成度評価の一例です。多くの修得因子において、卒業生の達成度平均値と4年後期の主観的達成度平均値の差異が極めて小さく、データとして高い健全性を示しています。図には企業へのアンケートで得られた「社会接続重視度」も示しています。達成度評価結果は学生にフィードバックされ、学修行動の改善に活かされます。



▲達成度評価の一例

今後に向けて/教育の質保証

近年、AIやIoT、ロボット等を高度に融合させた新たな経済社会（Society 5.0）の到来が予見されています。将来、我々が経験する変化は、これまでの延長線上にはない劇的な変化かもしれません。しかし、その中で人間らしく豊かに生きていくために必要な力は、これまで誰も見たことがない特殊な能力では決してありません。むしろ、どのような時代の変化を迎えるとしても、知識・技能、思考力・判断力・表現力をベースとして、言語・文化、時間・場所を超えながらも自己の主体性を軸にした学びに向かう一人ひとりの能力や人間性が問われることとなります。加えて、大学には、社会との対話を通じて、地域が求める人材像・能力・分野を適切に把握し、それを教育活動へフィードバックしていくことがこれまで以上に求められることとなります。

本学では、これまでに学修成果の可視化の取り組みの柱として、教育到達目標の属性となる独自の修得因子を高大接続並びに社会接続を踏まえて定義し、課外活動も含めた学生の学修成果を可視化しました。さらに、学生のリフレクションを促すためのLPI、およびそれと対をなす教師の教育活動を可視化するためのTPを構築・運用してきました。また、展開されるPDCAサイクルを支援するための本学独自の教学情報システム（IR）を整備しました。これにより学修および教育の質保証を支えるための基盤的な仕組みは構築できたと考えています。

今後本学は、上述の取り組みによって生み出される改善成果を可視化し、質保証の一環としてその成果を社会に向けて発信していきます。そのための重要な方向性として、ディプロマサプリメントの開発が急務であると考えています。学生は、課外活動も含めた大学での多様で深い学びと活動の中で、専門的な知識・能力の展開力に加えて、本学の教育目標にも謳われている豊かな人間性や総合的な判断力を身に付けて行きます。そこで、本学での4年間の学びの成長過程で身に付けた汎用的な能力・資質を可視化し、卒業時に提示することは、学生が社会に出るための大きな自信と指針になるものと考えています。

(2018年12月)

本事業に関する問い合わせ先
八戸工業大学 学務部

〒031-8501 青森県八戸市大字妙字大開88-1
TEL 0178-25-3111 FAX 0178-25-6183
e-mail kyoumu@hi-tech.ac.jp
URL <https://www.hi-tech.ac.jp/ap/>